文部科学省特別選定
少年向き・青年向き・成人向き・家庭向き

風は生きよという

存在を否定され、
死ぬ自由を突き付けられ、
それでもなお地域社会に分け入って
いく勇敢な呼吸器ユーザーたち。
存在理由を獲得していく彼らの姿が
逞しく眩しく映っていた。

川口有美子
作家・日本ALS協会理事

追い風は、ときどき前から吹いてくる

人工呼吸器 は 呼吸を助ける道具です

もしもあなたが、病気や障害のために身体を動かせなくなったとしたら、どんな人生を想像しますか？
映画が映し出したのは、ふつうの街でふつうの生活を送る人びと。特別なことといえば、呼吸するための道具・人工呼吸器を使用していることくらい。淡々とその生活を映し出し、歩んできた人生を見つめた時、浮かんできたのは日常の尊さ。たくさんの支援が必要だからこそ、多くの人に出会え、自由に動くことができないからこそ、生きてあることに感動する。じんわりとこころを揺する、人と人とが織りなす物語。
もしも あなたに、思うように身体を動かせない、そんな日が来た時は思い出してほしいのです。映画の中を駆け抜けていた、風の音を。
その風に包まれた人と人とが、支えあいながら生きていたということを。



障害が重ければ重いほど何のために
そこにいるのとか、言われるんだよね





そこから吹いてくる風が 人と人とをめぐり会わせてくれます



在宅用の人工呼吸器が現れたのは 1975 年頃、1 台 200 万円以上する呼吸器を自費で購入するなどして自宅へ持ち帰るしかなく、在宅へ戻るケースは稀であった。しかし 1990 年、診療報酬の改定により、病院から呼吸器をレンタルできるサービスが整備されたことで在宅生活への道が大きく開ける。
そして「病院から在宅へ」という医療改革の流れの中、在宅人工呼吸器利用者は現在約 2 万人にまで増えている。（出典：厚労省 平成 26 年社会医療診療行為別調査）





障害者ができる大きい仕事っていうのは外に出て人目について、
人の意識の中に障害者の存在をちょっとでも根付かせていくこと

〇お問合せ〇 「風は生きよという」上映実行委員会
〒192-0046 東京都八王子市明神町 4-11-11 シルクヒルズ大塚 1F（全国自立生活センター協議会内）
TEL：042-660-7747　FAX：042-660-7746　Mail：kazewaikiyotoiu@gmail.com 公式 HP: http://www.kazewaikiyotoiu.jp